

八戸市議会議長賞

「自然」を守る

中沢中学校 二年 藤井 琉衣

私の家は、一言で言うところ「山」の中にあります。家は少なく、部屋の窓を開けると目に入るのは、まずは「緑」です。飼い犬と一緒に朝の散歩をしながら、私はこの「緑」を、「自然」を、いつも全身で感じていきます。花が芽吹くとき、葉の色の変わるとき……私は自然の少しの変化に感動します。

柔らかな日差しが大地を暖め始める春。長い冬の間に降り積もった雪が溶け、タンポポやチューリップが少しずつ顔を出します。うぐいすのかわいらしい声が空に響きます。私はそれを聞いて春が来たことを感じ、胸を躍らせます。梅雨の季節には今度はカエルの鳴き声がにぎやかです。晴れた朝にはあさがおの花が開き、雨のしずくが葉に落ちます。そのみずみずしさが素敵だと思えます。夏の盛りにはセミの元気が山に響きます。私は特に、夏の夜空が好きです。建物が少ない山の中だからこそ、星がきれいに輝いているのがよく見えます。秋には、庭にあるカエデの葉が絵の具で染めたようなきれいな赤い色に変わります。その葉が散った頃には、雪がちらちらと降り始め、冬がやって来るのです。冬は、虫も鳥も、静かです。その静けさの中で、木の枝に積もった雪がぼりと

落ちるところを見ると、なんとも言えないおもしろさを感じます。

自然に囲まれて生活していると、そのすばらしさがよくわかります。セミや昆虫などの虫も、うぐいすやカエルなどの生き物も、ダンポポやカエデなどの植物も、どれも欠かすことのできない大切なものだと感じます。もしも一種類でも、どれかの植物や生き物がなくなってしまうたら、私たちの生活にどんな影響が出てくるのでしょうか。本気で想像しようと思っても、簡単には想像できません。もしも、うぐいすの鳴き声が聞こえなくなったら、もしも、タンポポのあの黄色い花が、春に見られなくなったら。私の家の庭のカエデの木が、家を囲んでいる杉の木が、消えてしまったら。私の生活は、寂しくなるかもしれません。そんな未来にはなってしまうのではないと、心の底から思います。

また、植物を大切にしたいという思いは、他の理由からも強くなっています。世界では今、地球温暖化が問題になっています。一つの生き物や植物がなくなってしまうと、という私の想像は、この地球温暖化とも深いつながりがあるとあります。動植物たちが微妙なバランスで共存できているから、これまでの住みやすい地球の環境ができたはずなんです。そのバランスが少しずつ崩れてきたことで温室効果ガスが増え、異常気象や海面上昇など、私たちの生活をおびやかす多くの問題が発生してきていると思えます。だから、私たちの生活から、植物、生き

物たちをこれ以上減らしてはならないと思えます。特に植物は、主に二酸化炭素を吸収してくれるので、温暖化を食い止めることに貢献してくれます。そしてまた、私たち人間も含めた、生き物の生活を支えてくれています。そんな植物が地球からなくなってしまうたら、地球自体も滅亡しかねないと私は思っています。植物は、私たちの生活に欠かせない存在なのです。

私は、これからの生活で、自然をこれまで以上に大切にしたいと思っています。自然を守ることは大切なことで、私一人が「自然を大切にしよう。」と考えていても変化は訪れないと思います。だからこそ、私はこの考えを多くの人々に伝えていきたいです。今ある自然をこわさないこと。そして、自分たちの手でどんな植物を植えることを心がけて生活していきたいです。

今日も、私の家からはたくさん緑が見えます。鳥の鳴き声が聞こえます。散歩をしながら花や草木の小さな変化を発見して、心を躍らせるあの瞬間は、私にとってかけがえのない時間です。部活動や勉強などで忙しい毎日の中で、余裕がなくなっていく私の心を「自然」は癒やしてくれます。そして目には見えなくても、庭のカエデや家を囲む杉の木たちは、二酸化炭素を吸収して酸素を生み出しながら、地球を守ってくれているでしょう。私たち人間を含めた生き物にとって「自然」は失ってはならない大切なものです。私たちが「自然」を守らなければ

ばなりません。そのことをいつでも忘れないようにしつかり心にとめて、まずは、大きな事をするのではなく、ゴミ取りや花や草木の手入れをするなど、小さいことから少しずつ実行に移し、私たちにとって、地球にとつて、大切な「自然」を守っていききたいと思えます。